



人型4足歩行ロボットが動き出すと子供たちの歓声が上がります。ドライバーなどの工具を使って自分で組み立てたマシーンなのです。

機械を操作しながら歩行を確かめたり、ロボット同士の相撲に熱中したり、子供たちは目を輝かせ、生き生きとした表情を見せていました。グローリー小学生育成財団(杉山昭理理事長)は毎年、夏休みに姫路市の同本社で「科学体験教室」を開催しています。

教室は、通貨処理機を製造するメーカーとしてのグローリーの

特徴を活かし、その技術で社会貢献出来ないかと考えたのがきっかけで、平成2年に始まりました。同社

の製品を支えるるメカトロ(メカニクス・エレクトロニクス)技術などを盛り込んだ実験や工作にすることで、子供たちに興味を持ってもらえるよう工夫を重ねています。対象は小学3〜6年生200人(保護者同伴)で、申し込みが多いので抽選で決めています。

指導に当たる社員は、設計、管理など様々な部門の中から募集し、約70人が参加します。太陽電池でモーターを回し、人形のうちわを動かすサイエンスショー、赤外線センサーで動くロボットの仕事など、毎年多彩な企画を立てています。

参加した子供たちからは「難しかったけれど、社員の人が手伝ってくれたので完成出来た」、保護者からは「熱心に取り組む子供の姿を見ることが出来た」など、毎年多数の感謝の言葉や手紙が寄せられるといいます。

「親子で楽しむ」イベントも劇場

同財団は平成7年に同社が拠出し



毎年たくさんの子どもたちが参加する勉強会



子どもたちの仕事を社員がサポートする

ましたが、その後本社のある姫路で開催するようになり、現在では同財団が「ぬいぐるみ人形ミュージカル 白雪姫と七人の小人」など親子で楽しめるステージを提供しています。

た3億円を基金にスタートしました。科学、スポーツ、芸術などの分野のイベント開催や助成を行い、将来を担う小学生の健全な育成を図るのが目的です。一企業が小学生を対象にこうした財団を設立するのは、当時も全国でも初めてのことでした。それまでも同社は子供たちのための催しを実施してきましたが、科学体験教室などはそのまま財団に引き継がれています。

活動は多彩です。「グローリーこども劇場」は、はじめ平成2年の埼玉工場竣工に合わせて同社が開催し

今年、昨年8月の台風9号で被災した佐用町の人たちを元気づけるため、例年2回の公演を3回に増やし、計4800人(うち被災地の子供と保護者は1600人)を招待することにしています。

このほか、「少年剣道大会」「テニス大会」「英会話教室」ウォークラリーなどへの助成も行っています。設立時の社長で財団の初代理事長を務めた尾上壽男会長は「ささやかな社会奉仕ですが、子供たちの健全育成を積極的にお手伝いしていきたい」と話しています。